

イギリスにおける幼小連携の現状と課題（その2）

— ダンス教育に焦点を絞って —

高野 牧子 堀井 啓幸

要 旨

本研究はイギリスでの調査研究を基に幼小連携のあり方を考察する継続的研究であり、「幼小連携」のカリキュラム構築の基礎的資料とするものである。本稿ではイギリスにおけるダンス教育に焦点を絞り、対象年齢による活動内容を明らかにし、系統性のある身体表現の指導法を検討することを研究目的とする。研究方法は文献及びインタビュー調査により、イギリスでの幼児教育及び小学校でのカリキュラムの特徴を明らかにした上で、ナーサリー及び小学校でのダンス教育の実践事例を分析し、幼児から小学校までの指導内容の展開をまとめ、その特徴から系統性のある身体表現の指導法を検討した。なお、調査対象とした実践はいずれもダンス指導者が指導している事例である。

ロンドンでの事例調査から示唆される点は主に以下の4点である。

- ①指導内容については他領域と連携する（教育課程の融合）。
- ②保育所、学校側がカリキュラムを基に外部の指導者へ指導内容を提示し、それに基づき、ダンスの指導展開はダンス指導者が立案し、授業を実践する（外部指導者との連携）。
- ③テーマに沿って活動内容はウォーミングアップから発表まで一貫性がある（テーマの一貫性）。
- ④ダンス指導者がテーマに添った動きを子どもたちに真似させ、その動きの中から子どもたちが即興的に組み合わせる自由な踊ることを、幼児期から小学校まで繰り返し実践し、系統性が認められた（実践の系統性）。

イギリスのダンス教育では芸術家が学校と協働し、教育内容の連携と信頼関係の上で、子どもの創造性を高める質の高いダンス教育が展開されていた。専門家と連携することでカリキュラムアーティキュレーションが保たれている現状は、日本における学校支援ボランティアなどの活用のあり方に示唆を与えるものである。

キーワード：幼小連携 ロンドン調査 ダンス教育

I. 研究の背景及び研究目的

本研究は、幼稚園から小学校への接続期に起こる子どもの様々な不適応問題への抜本的改革に向け、イギリスでの調査研究を基に幼小連携のあり方を考察する継続的研究である。

イギリスではブレア労働党政権以降において、小学校に「レセプションクラス」を積極的に設置し、小学校の開始年齢を実質的に下げ、就学前教育と初等教育の接続を図っている。前号（高野・堀井2013）では、ロンドンでの事例調査結果からレセプションクラスからYear1クラス（小学校1年）への「なだらかな」接続を図る条件整備の実態を明らかにした。

本稿では、イギリスにおける「身体表現」教育に焦点を絞り、幼児教育における「身体表現あそび」から小学校体育における「表現リズム遊び」へと接続する具体的な方法を検討し、「幼小連携」のカリキュラム構築の基礎的資料とするものである。

ちなみに、日本における「身体表現」教育について、平成21年度より完全実施された幼稚園教育要領の領域「表現」の内容では「(8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。」とし、「動きによる表現」が言葉や演じるより先に記載されている。言葉の発達が未熟な幼児期の特性を活かした内容として

（所 属）

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

「動きによる表現」の重要性は高い。

一方、平成23年度から完全実施された小学校学習指導要領では、中学年以上が「表現運動」と示されているのに対し、小学校低学年では「表現リズム遊び」と提示されている。「遊び」という視点を明示することによって、少なくとも名称においては幼児期から低学年期への教育の一貫性を重視していることが認められる。

しかし、具体的な指導内容についてみれば、小学校から高校に向けては、「4・4・4」の括りとして小学校1年から4年、小学校5年から中学校2年、そして中学校3年から高校3年までと内容の系統性を図っている（村田2009）のだが、幼稚園から小学校という視点は含まれていないのが現状である。

そこで、本稿では、「教員がアートの専門家と協働し、豊かなアートに基づく学習経験を与え、子どもの創造性や想像力を養うという例が多数ある」（Nutbrown Review2012、p15）イギリスでの特にダンス指導について、対象年齢による活動内容を明らかにし、系統性のある身体表現の指導法を検討することを研究目的とする。

II. 研究方法

文献及びインタビュー調査により、イギリスでの幼児教育及び小学校でのカリキュラムの特徴を明らかにした上で、下記のナーサリー及び小学校での身体表現・ダンス指導の実際を分析し、幼児から小学校までの指導内容の展開をまとめ、その特徴から系統性のある身体表現の指導法を検討する。

(1) インタビュー調査（2012年9月14日）

- ① All Saints' C of E Primary Schoolにて教員 Helen Yeo氏 及びダンス指導者 Chery氏
- ② NFER(National Foundation for Educational Research)にて Caroline Sharp氏

(2) 授業観察

- ・ Black heath Montessori center (nursery)
縦割り2クラス
- ・ All Saints' C of E Primary School

8～9歳、10～11歳、各1クラス

III. 結果および考察

1. イギリスにおける就学前及び小学校期の教育課程とダンス教育

イギリスでは、2002年3月に Foundation Stage として3～5歳児を対象としたカリキュラムが法制化され、日本の幼稚園教育要領の5領域に対応するような、次の6領域が掲げられている。

- ・ 個人的・社会的・感情的発達
- ・ コミュニケーション・言葉・リテラシー
- ・ 課題解決、推理、数えること
- ・ 世界の知識と理解
- ・ 身体の発達
- ・ 創造性の発達

どの領域も就学前の学習目標があり、ダンス教育については、「身体の発達」及び「創造性の発達」が関わる。さらに、2008年5月には Early Years Foundation Stage（以下、EYFS）として、0歳児～5歳児未満までの指導手引き（practice guidance）が示された。

EYFSは、2012年9月には見直しが行われ、初期の学習目標と評価について、目標(goal)を69から17に精選し、117項目の評価視点であったのに対し、教師は17の目標について判断すればよいようにした。これはEYFSの教育課程と5歳以上の教育課程としての National Curriculum の接続がとりわけ就学前の教育を担っている保育者にとって難しかったという現状を踏まえている。現時点では、目標ごとに子どもたちが期待したレベルに到達しているか、上まわっているか、まだ到達していないか教師が簡単に判断できるようになっている。

ちなみに2012年9月までは、子どもの発達段階を生後から11か月、8から20か月、16から26か月、16から26か月、22から36か月、30から50か月、40から60か月（5歳）までと、7段階の期間に重複しながら分け、子どもが何を学習しているのかの観察視点を詳細に示されている。例えば、30から50か月で10の視点が挙げられ、「動きを使って感情を表現する」「音楽に応じて動

きを創造する」「音楽やダンス、お絵描き、その他の素材や言葉など、幅広い媒体を用いて経験や反応を表現する」等が書かれている。また40から60か月（5歳）では、6つの視点があり、「出来事や人々、物について簡単な表現を創造する」「感情や考え、経験について表現したり、反応したりする為に、動きやジェスチャーの新しい組み合わせを創り始める」等が示されている。

これに対し、就学年齢の5歳児以上の子どもには、日本の学習指導要領（幼稚園教育要領）に相当する National Curriculum（以下、NC）があり、ダンスは日本と同じように、体育の領域に位置づけられている。2012年9月に公示されたNCにおいて、到達目標はキーステージ1（5歳児）では、「簡単な動きのパターンを使ってダンスを演じる（perform dances using simple movement patterns.）」とあり、キーステージ2（6歳児）では「幅広い動きのパターンを使ってダンスを演じる（perform dances using a range of movement patterns）」と発展する。2012年までのNCでの到達目標では、より細かな具体的な目標が以下のように示されていたので、かなり簡略化されたといえるだろう。

キーステージ1（5歳児）

- a. 想像的な動き、音楽を含めた刺激への反応、基礎的技能（例えば、移動する動きや形を作ってポーズ、ジャンプ、ターン、ジェスチャー）を演じる
- b. 動きのリズムや速さ、高さや方向性を変える
- c. 多様な時代や文化を含んだ、簡単な動きのパターンを使って、ダンスを創造し、演じる
- d. 考えや感情を表現し、伝える

キーステージ2（6歳児）

- a. 多様な時代や場所、文化を含んだ幅広い動きのパターンを使ってダンスを創造し、演じる
- b. 幅広い刺激や伴奏への反応

2. イギリスでの身体表現・ダンスの指導の位置づけ

イギリスでは、Laban理論による指導法として Gough（1993）が示した4つの視点、「身体・動作」「ダイナミクス」「空間」「関係性」から、1回のレッスンのねらいを決め、組み立てていく指導法をとる。創作ダンス指導の展開について、National Dance Teacher's Association（NDTA イギリスのダンス指導者の組織）では、「ウォーミングアップ（WU）」「動きの探究」「発展と構成」「発表と鑑賞」「クールダウン」という指導展開を推奨している。

また、イギリスの Creative Partnership（以下、CPと略）制度は国と地方当局（LA）が経済的に支援し、学校と各種芸術団体が連携し、質の高い芸術教育を行うことを目的にした制度である。CP制度は Ken Robinson 教授がカリキュラムを通じて創造性を培う必要性を説いたことを背景に2002年設立した。文化芸術教育として、地域の学校同士が連携し、1学期間、または1年間という長い期間で、芸術家や文化財団等を招くプロジェクトを企画し、CP制度へ加盟申請し、政府から資金を得て、実施する。単に1日だけ劇場鑑賞をして終わるような内容ではなく、芸術家等が継続的に関わり、子どもたちが活動を通して創造性を高め、芸術への理解を深める学習である。

この活動に学校の教師も参加することにより、創造性を促す指導法を学び、教師のスキルアップを図り、芸術家が訪問指導していない時にも、継続的に質の高い芸術教育が実践できることも期待された。100万人の子どもと9万人を超す教師たちと共に、イギリスの5000校を超す学校で、8000ものプロジェクトが展開された。2011年には World Innovation Summit for Education（WISE）を受賞した。校長へのアンケート調査結果によると、CPの教育的成果として、生徒たちの自信やコミュニケーションスキル、動機づけにつながり、教師自身の指導法の改善にも効果的であったと評価している。

しかし、政権が交代し、Art Councilの政策が変更となり、基金は2011年9月で打ち切りとなっ

た。現在ロンドンでは10校程度が、小規模で同様の活動を続けている。本稿で取り上げた以下の事例は、その後もダンサーを招き、指導しているナーサリー、小学校での実践例である。

(1) 3～5歳児への身体表現活動
 観察場所：Black heath Montessori center (nursery)
 観察日時 2012.09.13. 14:30～15:00
 15:00～15:30 (30分ずつ)
 指導者 E氏(熟練のダンス指導者)
 対象 3～5歳児(縦割り保育) 12名ずつ

3. 幼児期及び小学校における身体表現・ダンスの活動の実際

表1 3～5歳児への身体表現の具体的な活動展開 テーマ「Circle」

時間	課題	具体的な活動内容
8分	ウォーミングアップ (指導者主導) (手の合図を確認)	マットの上で、ジャンプ マットの片づけ 丸く走る ストップ ・ストップ 手のひらを垂直 ・指立て 静かに ・耳に手をあてる 聞く ・親指を立てる グッド ジャンプ 高く、前後、左右、回って、1回転ジャンプ (走ってジャンプ) ストレッチ 上に伸びる、床に手をつく 3～4回繰り返す バランス ジャンプ、ストレッチ、バランスの動きを使って音楽に合わせて即興ダンス
5分	発展と構成 (子ども自身) 動きの探究① (指導者主導)	今日のテーマ「Circle」の確認 円を描こう(指導者主導) 小さい円から、だんだん大きな円、巨大な円、自分も回る ・体の前で、 ・床の上で、 ・テーブル面で
5分	動きの探究②	紙の円盤を使って(円盤を一人1枚配布) バランスを取ろう ・頭、肘、指、手のひら、背中、おへそ、膝、甲 投げて取る、うちわのように振る 音楽をかけて即興的に自由に踊る
8分	発展と構成① (子ども主導) 動きの探究③ (指導者主導)	円盤の回収 フープを使って いろいろな動き 穴から顔を出す 腕で回す ストレッチ 床においてインアウト 床で回す間、ジャンプ 床を転がす
4分	発展と構成② (子ども主導) クールダウン	音楽をかけて、自由に動く マットを運ぶ マットの上で、クールダウン ゆっくりストレッチ 立ち上がって伸びる 静かにお部屋に歩いて行く

(2) 8～9歳へのダンス指導

観察場所：All Saints' C of E Primary School
(London)

観察日時 2012.09.14.

指導者 C氏（熟練のダンス指導者）

対象 Year4（8-9歳 KS2、25名）

概要：見学した小学校では、Artisという芸術家集団と3年前から連携し、ダンス指導が実践されていた。Artisはダンスと音楽、演劇の専門家が作った団体である。学期ごとに所属するアーティストが学校と契約し、子どもたちへ芸術教育を行っている。毎週金曜日、NurseryからYear2までは30分間、Year3からYear6は1時間、ダンス指導している。

指導内容はNational Curriculumを基に、担任教師が決めたテーマを6週間で展開する。このテーマは他教科でも学習し、総合的な学びとなっている。Artisから派遣されているダンス教師はこのテーマを基に授業内容を計画し、指導実践し、生徒たちは学期の最後に作品創作し、発表する。テーマによっては、科学や歴史など、含む内容が広範囲な場合があり、そのような時は半年同じテーマを使って指導してもらっている。

学校の教員もアートに関して、トレーニングを行い、Artisの指導を一緒に見て学び、学校の教員がドラマやダンスを教える事もある。ダンスやドラマは、子ども達の表現力を豊かにし、また、様々な要素を融合して教えるのに素晴らしい方法だと思っている。例えば、英語を教える為に、演劇（ドラマ）を用いた事もある。

観察した8～9歳児へのダンス指導のテーマは「Hot - Cold」であり、教室にはまだ新学期が始まったばかりなので、「HOT-COLD」と記された模造紙（写真1）が掲示され、これから調べたことを貼るといったことだった。ダンスの具体的な指導内容は、学習テーマの中で設定し、他教科と連携して総合的に学習を進められていた。以下、具体的展開を示す。



写真1 教室内の掲示

表2 8～9歳へのダンス指導の具体的な活動展開 テーマ「Hot-Cold」

時間	課題	具体的な活動内容
5分 5分	ウォーミングアップ 今日のテーマ「Hot and Cold」の確認	自己紹介とポーズ。全員でコピーする 教師の問いかけ「寒い時は？」 → 子どもから「こする」動きを引き出す 両手を合わせてこする、片手でこする、腹、尻、脚を上から下へこする ※8カウント歩き、2カウントずつ、頭上、肩、クロスして腰、太ももを両手でたたく。 次に後ろに8カウント歩き、8カウント全身をストレッチする。（全員同じ動き） この簡単な動きのバリエーションを与え、音楽に合わせて動き繰り返す。
2分	テーマの説明	（※ダンス指導者の近くに集合し、座る） 「暖かい日 (Hot Sunny day) どんな事を感じるか。天気の良い日にお散歩をすると、どのような雰囲気か？」等の問いかけに、子どもたちは「Happy」「Fun」「stretch」等と答える。想像や感情と動きが繋がるように、子どもの意見を聞きだす。

<p>8分</p>	<p>動きの探究①「HOT」 (指導者主導) 発展と構成① (子ども主導)</p> <p>* 指導のポイント</p>	<p>「Hop」「Run and Jump」「Swing」「Turn」等、具体的な動きを示し、一緒に動く 音楽に合わせて、子どもたちが提示された4つの動きを自由に組み合わせて踊った。 最後に、曲に合わせて動き、暖かさを感じた時のポーズをとる。 ※ポーズでは、体を大きく使ったポーズを促す(次のColdの動きと対比的になるような意図がある)</p>
<p>15分</p>	<p>動きの探究②「COLD」 (指導者主導)</p> <p>* 指導のポイント</p> <p>発表と鑑賞① * 指導のポイント</p>	<p>「フリーズ」の言葉かけで、動きは「氷」のような身体表現へと発展。氷のように、固まった状態から少しだけ手をあげ、指先だけ震える。(単語として、Spiky(トゲトゲした)を用いて、手のひらを開き、氷の結晶のトゲのような動きを子どもに見せる) 8カウントで床へ崩れる。 ※床へ崩れる際に、きちんと体に負荷をかけずに崩れるように(safe practice)、注意。 ◆どんな感じがしたか、子どもたちが言い合う 踊りを見せる子と観察する子の2グループに分ける。 ※観察側にも、必ず、「何に注目してみるか」を指導。今回は自分が好きだと思う動きを見つけ、好きな動きを指摘しあう 例「○○の～な動き(実際に真似)が好き」</p>
<p>15分</p>	<p>発展と構成② (子ども主導) * 指導のポイント</p>	<p>男女混合の5人組でこれまでの動きを利用して、グループの作品を創作する * 「1formation & 1finish」と明確な指示で、隊形、終わり方を工夫するように指導する。 各グループとも活発に意見を出し合いながら、実際に動いて作品を創作していった ダンス指導者および、クラス担任が各グループを巡って指導</p>
<p>8分</p>	<p>発表と鑑賞② 1グループずつ発表 それぞれの良い動きを指摘しあい、認め合う 例)「アーチが良かった」「一人が立ち、その周りを回るのが良かった」 ◆発表例 ①車椅子の子どもを中心に回り、放射状に立ち、外向きでポーズ ②全員一人ずつで跳びながら回る。 2人が並んでブリッジをし、他の3人がくぐる 1列でポーズ ③横2列に並び、踊る。半円形になってポーズした後、くずれていく 等 各グループそれぞれが異なるパフォーマンスだった。</p>	
<p>2分</p>	<p>クールダウン</p>	<p>両手で自分の体を優しくたたき 友だちの体を優しくたたき合う</p>

本指導終了後にダンス指導者C氏へのインタビューし、授業評価を求めた。C氏は、「このクラスはとても素直に表現できるクラスで、やりや

すい。今日の課題は動きにしっかりコントラストをつけることにあり、うまく出来ていた」と評価した。

(3) 10～11歳児へのダンス指導

観察日時 2012.09.14.

観察場所：All Saints' C of E Primary School
(London)

指導者 C氏（熟練のダンス指導者）

対象 Year5（10-11歳、KS3、27名）

表3 10～11歳児へのダンス指導展開

時間	課題	具体的な活動内容
5分 5分	ウォーミングアップ 今日のテーマの確認 「第二次世界大戦」 ウォーミングアップ①	リズムに合わせて生徒全員の名前を言う 今日のテーマは特に「疎開」 シェイク（右手・左手・右足・左足） 8×8×4×4×2×2×1×1×1×1ポーズ クローズポジション 8カウント歩き、小さくなる。Small というイメージから「隠れる」「身を守る」など、小さくなる動作からテーマである戦争に繋がる意味の言葉を連想させていく。
5分	動きの探究 *指導のポイント 大きく体を広げられるのは、安全を表し、ここでも戦争に繋がる意味を含める。小さい動きから 大きい動きと逆にする事で体に開放感を与える。	オープンポジション 8カウント歩き、大きくなる。bigから「大きくなる動き=自由」という印象・体感を教える。
8分	テーマの説明 Brain Storming * Shopping Game：ストーリーを作りだすゲーム。	子どもを集めて、絵本を見せながら戦争中の疎開の話をする。疎開者の人数、町や親から離れる事は悲しい出来事ではあるが、田舎では都会にない自由を与えられたので、子どもが寂しい思いだけをただけではない事など 【質問】 疎開する前、荷造りをする際に、何を持っていくのか？ 一人がアイデアを出し、その展開を次の子どもがつなげていく。
7分	Xbox は当時、無かったことを確認し、言い直させる 発展と構成① (子ども主導)	4人を前に立たせてデモンストレーション 例) 1人目 荷造りのためにトランクを開ける 2人目 出かける前にお手洗いに行く 3人目 Xbox →両親にお別れを告げる 4人目 ママと抱き合う ※ストーリーにジェスチャーを加えて、振りを創る 7人グループでショッピングゲーム 7 thing → 7 movement ダンス指導者 (Chery) が各グループの指導 担任 (初任) は他のスタッフとおしゃべり ◆子どもの活動が停滞
中断 約10分	ダンス指導者が全ての活動を止める 主任教員へダンス指導者が説明後、主任教員から子どもたちへ指導	「立ちなさい」「窓の外を見ないで」と注意 ふざけていた男の子を名指しで出ていくように指示 子どもたちを集めて座らせ、なぜ怒っているか説明 問題行動を起こしていた5名の子どもは見学
6分	他の子どもたちへ違う内容でダンス指導再開 動きの探究② (指導者主導)	8カウントの動き 前キック、後ろへ1歩×2 踵を起点に捻じる ダウン×4 1人から2人組で向かい合って同じ動き

2分	踊りの説明	2人組で場所を移動、回る →今度は子どもたちも集中し、指導者の動きを真似して踊る
5分	発展と構成② (子ども主導) *指導のポイント パートナーを信頼し、支える	「説明なく踊った動きが、何のダンスでしょうか？」 Lindy Hop の説明 1920～30年代 アメリカ、ニューヨークで踊られたのが起源。スイングジャズに合わせて男女2人組で即興的に踊る 二人組みになり、曲に合わせて、自由に踊る *「支えあう動き」や「リフト」など、ペアワークを指導
5分	発表と鑑賞① *指導のポイント	全体を2グループに分けて発表 *笑顔いっぱい！ 最後のポーズはしっかり決めよう！ それぞれの良い動きを指摘しあい、認め合う
2分	クールダウン	自分の体をパタパタたたく

IV. 考察

管見の限り、イギリスにおけるダンス指導は本事例における小学校8～9歳児への指導が基本であると考えられる。授業の組み立ては動きを提示し、即興的に模倣して体験させながら、ウォーミングアップを図る。また、本時のテーマである「HOT-COLD」ともつながる動きにしている。本時のテーマの「HOT」では、SUNNYという子どもたちのイメージから「弾む」「回る」「大きく伸びる」「スイング」の動きを体験し、「COLD」では、FREEZEから「固まる」「指先が震える」「崩れる」動きを体験し、動きの質が対比的なものを取り上げて経験させていた。その上で、子どもたちのグループ学習活動として、隊形と終わり方を工夫して発表し、多様な作品となった。子どもたち自身も生き生きと表現し、日本の小学校における表現運動の指導と同様、テーマに沿った「習得一活用一探究」があり、理想的な指導が展開されている。

観察した就学前教育（ナーサリー）から小学校における3つの授業の共通点としてあげられるのは、他領域や他教科との連携が積極的に行われているということである。幼児期では、今回は図形概念である円を取り上げ、指で円をいろいろな空間に描くことから始め、円盤型の紙、フープと道具を利用しながら、指導が展開されていった。

小学校でもこの点は共通であり、指導内容のテーマは学校側が決定し、ダンス指導者はそれに基づいて指導内容を検討していた。また、今回2人のダンス指導者の指導内容を観てきたが、両者ともダンス指導展開の巧さが挙げられる。特に小学校での指導ではウォーミングアップはその後の活動内容と合致するような動きを入れていた。また幼児期から小学校まで、指導者が動きを提示し、子どもたちがそれを模倣することから始め、その動きを自由に組み合わせて即興的に子どもたちが踊る活動を繰り返している。単に「自由に」踊るのではなく、いくつかの動きを体験した後、それを組み合わせ、即興的に自由に踊ることによって、どの子どもも指導者が意図した動きを体験的に理解しながら、自分の表現的な動きのボキャブラリーを増やしていると考えられる。

発展と構成では、小学校では小グループでこれまでの動きを基に簡単な構成を行い、発表に向けて練習していく。今回、幼児の指導では明確に発表の時間を設けてはいなかったが、子どもたちが与えられた動きから自由に踊る場面では互いを見て、真似しながら自分なりに動きを工夫し、発展させていた。小学校になると、発表も明確に位置付き、観る視点も明確にした上で、互いを認め合い、評価しあう体制が出来上がっていた。

また、こうした指導への担任教員のサポートが

あることも特徴的である。幼児では通常はクラス担任も入り、一緒に身体表現活動を行う。8～9歳でもクラス担任は積極的・協力的に学習を支援し、クラスの雰囲気もよく、集中していた。ただし、10～11歳児では、クラス担任と一緒にいたものの他のスタッフとおしゃべりに興じ、指導者のサポートはほとんど行っていなかった。結果、子どもたちは集中力が途切れ、指導者の怒りを招いてしまった。しかし、指導者が子どもたちに注意した後は指導者からの聞き取り後、子どもたちへ主任が説明、指導し、授業を妨害したとされた子どもへ注意を行っていた。学校外部のダンス指導者が指導を中断するには指導内容への自信と、学校側との信頼がないとできない。教育内容の連携と信頼関係の上で、ダンス教育の質の高さが保たれていると感じた。日本においても外部講師に依頼する際にも、これは課題であろう。

V. まとめ

本稿では、イギリスで行われている身体表現・ダンスの授業を参観し、指導内容の系統性と学校の対応の現状を考察した。

指導内容については他領域と連携し、保育所（ナーサリー）、学校側がカリキュラムを基に外部の指導者へ指導内容を提示し、それに基づき、ダンスの指導展開はダンス指導者が立案し、授業を実践していた。つまり、外部指導者へ任せきりにせず、芸術家が学校と連携し、子どもの創造性を高める質の高いダンス教育が展開されていた。日本において中学校1・2年ダンス必修化に伴い、地域の外部指導者の活用が問題になっており、テーマや指導内容等、ダンスの授業全てを外部講師に委託している場合もある。あくまでも学校側がイニシアチブを取り、学習指導要領の中で外部講師を活用すべきであり、イギリスの事例は大変参考になるものである。

また、テーマに沿って活動内容はウォーミングアップから発表まで一貫性があり、ダンス指導者主導で教えた動きを真似させ、その動きの中から子どもたちが組み合わせ、自由に踊ることを幼児期から小学校まで繰り返し行っており、系統性

が認められた。そこには、就学前教育の段階から骨太の指導が行われているという事実があることが示されている。

レセプションクラスが学校教育に組み込まれつつある事実を踏まえると、就学前教育の独自性をどのようにとらえたらよいかという課題もある。しかし、ナーサリーの保育者として働くための資格が資格レベルでしか捉えられておらず、小学校以上の教員資格（QTS）との均衡が欠落していると指摘されるイギリスの就学前教育の専門職性が危惧される中で、専門家と連携することでカリキュラムアーティクレーションが保たれている現状は日本における学校支援ボランティアなどの活用のあり方に示唆を与えるものである。

◆謝辞

本研究は JSPS 科研費 23500698 の助成を受けたものである。

【文献】

- Department for Education (2012) Development Matter in the Early Years Foundation Stage (EYFS) p.46
- Department for Education (2012) Statutory Framework for the Early Years Foundation Stage
- Department for Education (2013) 2014 Early Years Foundation Stage Profile Handbook, pp.23-26
- Foundation For Quality Final Report (Nutbrown Review)
;The independent review of early education and childcare qualification, June 2012
- Ken Robinson says schools kill creativity, Filmed Feb 2006 · Posted Jun 2006
- 村田芳子（2009）
女子体育，ダンス指導ハンドブック，pp.6-9
- National Dance Teachers Association (1995) Response to the National Curriculum Orders for Physical Education NDTA
- Sir Ken Robinson: Bring on the learning revolution! Filmed Feb 2010 · Posted May 2010
- Standards & Testing Agency (2013) EYFS Profile ex
高野牧子・堀井啓幸（2013）イギリスにおける幼小連携の現状と課題（その1），山梨県立大学人間福祉学部紀要 vol.8
- [CCE website](#)
- [Creativity, Culture and Education website.](#)

Present Condition and Task for Preschool/Elementary School Cooperation in England (Part 2)

— From the London Case Study of Dance Education —

TAKANO Makiko, HORII Hiroyuki

Abstract

This study is in ongoing studies that examine of pre-school to primary education should be based on research in the United Kingdom, and fundamental data consistency between early childhood and elementary curriculum. To consider the teaching method focuses on dance education in the United Kingdom, and activities by age group, resistant strains of to study. Research methods on the revealed features of the curriculum in primary schools and early childhood education in the United Kingdom by the literature and interviews, analyzes case studies of dance education in the nursery and primary school, examined the teaching of body expression together from elementary school teaching from early childhood development, from its characteristic of resistant strains. Furthermore, practitioners were surveyed in case both are teaching dance instructors. Points from the survey in London suggested that mainly the following four points.

- (1) Theme of dance education are connected with other subjects and areas.
- (2) Nursery, school curriculum based on and presents guidance to foreign leaders, based on it, dance teaching development plans and dance leaders, to practice teaching.
- (3) Along the theme activities from warming up until the announcement be consistent.
- (4) To dance freely improvised combination of children among its movements and mimic children in motion dance leaders meeting on the theme from childhood and practiced repeatedly until elementary school, showed the strain.

In dance education in the UK artists collaborating with schools and educational cooperation and enhance the creativity of children on trust, quality dance education had been deployed. Status curriculum kept in collaboration with experts in utilization, such as school support volunteer in Japan give suggestion.

Keywords: preschool/elementary school cooperation, London study, Dance Education